

# ちよつと一服 講座

# 天皇杯に輝く名茶 そのぎ茶 ～その歩みをたずねて～

東彼杵町史談会会員 谷山 満三郎

## 3. 江串鉄砲組について

去る十月下旬、最高の秋日和に大村・東彼農道を南に走り一ツ石分岐点より、天照皇大神宮様の方向に車を走らせる。付近は稲刈の最中で、コンバインが到るところに活動していた。この中に旧友の渡海忠さんがあった。町報連載記事のことを話して一ツ石郷あたりの古い鉄砲組のこと、それ以降の開発についてお尋ねした。渡海さんは御高齢ながら歴史の生き字引そのままに温顔を思いをよみがえさせながら、快く話して下さった。

日干茶の藩納は毎年式百拾七斤（一斤＝式百五拾匁）余り納めてきているから、この谷合の斜面が畠地であったろうから、古くは甘藷がなかった時代、ハダカ麦や小麦はあったろうから斜面を拓いて麦を作り周囲に茶を植えていて、日芋茶をつくっていたのではないかと思うとのこと。

開田は谷間の水流れに少し許りはあったろうが、現在の水田拓きはやはり、野岳堤や赤似田堤が出来て水田を拡大し始めた元禄年間ではないか。鉄砲組の開田が始まり野岳堤の堤つくりの技術が習得出来、郡岳や武留路岳の自然水の利用法がわかったので綿打堤が造られ、水の不利用期に上堤の余水を下堤に溜込んで保有する水利法が考え出され水田開発が広がったのであろう。

ここで当時の大村藩の財政事情を調べてみた。

初代藩主、喜前の時代は、朝鮮の役に7年の長きに亘り出陣し、莫大な出費をし、更に玖島築城や、キリスト教からの転宗がありキリスト教徒に毀された神社や寺院の再建があった。

慶長12年大村家親類払いによって、重臣による単独知行の村がなくなり一族は没収、又は半減されこれによって姓を変え、石高を減らされて残った一門もある。浪人となって他所に移った者もあった。例えば朝鮮出兵は時の天下人豊臣秀吉の命によるものであり、この強大な政権を背景とした朝鮮出兵を契機として、喜前は家臣団の整理と統一を断行したのである。一例をあげると、中世以来の在地主福田氏は朝鮮出兵の功績によって正式に大村家の家臣にとりたてられ、伝来の福田村を離れて大村城下に居住した。後には知行230石を与えられている。逆に出兵に協力しなかった小佐々氏・神浦氏・大田和氏・天久保氏・瀬戸氏など（現在の西海市の五島灘に面



一ツ石郷の綿打堤

する地帯)はことごとく取潰されている。このように大村喜前は、朝鮮出兵の功績を評価して恩賞地の配分、また領地の没収を断行し、この状況の中で中世末からの在地領主、家臣団の再編成を行ったということが出来る。没収した領地は、藩主直轄地(蔵入地)となしたのである。慶長10(1605)年、江戸幕府は当時大村氏の支配地であった長崎新町(外町)を幕府領として公収し、その代わりに浦上・家野・外目の3ヶ村を大村藩に返還された。これで大村藩48ヶ村が確定した。

## 《大村藩領48箇村と村高》

(斗以下切捨)

	村名	村高石	村名	村高石	村名	村高石
地方 11 村	・大村	3,144	・三浦村	854	・川棚村	1,564
	・郡、松原	4,062	・江串村	396	・波佐見村	2,484
	福重、竹松		・千綿村	720	・宮ノ村	744
	・萱瀬村	316	・彼杵村	2,238		
内海 8 村	・日並村	111	・形上村	108	・川内浦村	241
	・西海村	273	・大串村	577	・横瀬浦村	95
	・長浦村	346	・八木原村	136		
外海 18 村	・面高村	43	・雪ノ浦村	106	・福田村	502
	・天久保村	163	・神ノ浦村	249	・大島村	19
	・大田和村	153	・黒崎村	123	・嘉喜浦村	18
	・中浦村	90	・三重村	317	・松島村	51
	・多以良村	218	・陌刈村	135	・江ノ島村	66
	・瀬戸村	180	・式見村	300	・平島村	12
向地 11 村	・伊木力村	230	・時津村	1,348	・浦上家野村	300
	・佐瀬村	139	・滑石村	370	・浦上古場村	428
	・長与村	1,229	・浦上西村	287	・戸町村	379
	・高田村	467	・浦上北村	592		

48ヶ村 27,973 余、慶長17(1612)年、第2回目の検地の結果であり総石高は 27,973 石8斗7升7合が大村藩の正式な朱印高となり、幕末まで継承されることとなる。

現在の東彼杵町は、彼杵町、千綿村の合併で成立し、当時の千綿村は文化11(1814)年に江串村(武留路・一ツ石・木場・蕪・里の各郷であった)を、千綿村に合併した。